



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / カキ、ブドウ、イチジク

# 足立 裕俊さん (26歳)

(営農地 / 朝倉市杷木志波)

## 地域を守り、さらに、消費者の声に応えたい

《就農のきっかけ》

### 父、母の仕事に憧れて

観光果樹園を営んでいた実家の農作業を手伝っていた足立さん。消費者と楽しそうに接し、自信を持って自分たちの作った果物を販売する両親の姿に憧れていました。地元農業高校卒業後、県農業大学校へ1年間通いました。さらに、実践を積むために県農業総合試験場で実習生としてもう1年間学び、その後、試験場の臨時職員として2年間働きました。この間に、試験場などの最先端の情報を収集し、果樹の剪定や接ぎ木など実践的な技術を身に付けることができました。22歳で親元に就農し、今年で4年目。今まで学んできたことを経営に取り入れつつ頑張っています。



プロフィール

■家族構成 / 祖母、父、母、姉、本人

■前職 / 農業総合試験場の臨時職員 ■営農年数 / 約4年

■耕作(経営)面積 / 3ha ■販路 / 直売、市場、直売所、JA共販

《これまでの過程》

### 規模拡大と新規品目の導入、地域の担い手として

足立さんが就農した当時、実家はカキとブドウが主体の観光果樹園でした。就農してすぐに、親に相談して、県農業大学校時代に学んだイチジク「とよみつひめ」を新規に導入し、JAへの出荷も行うようになりました。また、地域では高齢化のため、耕作放棄地が多くなっています。そんな中、後継者不在のために作れなくなったカキ園を任せられるなど、地域の担い手としても期待されており、経営面積は徐々に増加しています。また、どうしても発生する生産物のロスを減らすために加工品の取り組みも始めました。出荷できなかったカキは、干し柿や乾燥させてカキチップとして販売するなど、販売アイテムを増やし、消費者を楽しませるよう、様々な工夫をしています。

《これからの展望》

### 消費者のニーズに応えること

足立さんの経営の主体は観光果樹園です。消費者の生の声を聞くことができ、経営に生かすことができます。カキ狩りや、ブドウ狩りに来たお客様からの「色々な品種を味わいたい」との要望から、カキ、ブドウの様々な品種を導入中です。現在は、8月～12月の5ヶ月間を観光果樹園として営業していますが、「年中消費者が楽しめるような経営を行いたい」と、モモやイチゴなどの新規品目の導入を検討中。さらに、今までの加工品に加えて、果物を使ったタルトやケーキなどの、スイーツにも挑戦したいそうです。「『おいしい果物を楽しみたい。』というお客様の声に応えることが大切だと思います。」と笑顔で語ってくれました。



### Good 成功のためのポイント

地域に溶け込むこと。そして、お互い困ったときには助け合える関係が大切。また、精神力も重要で、「失敗してもあきらめないこと」、「一生懸命取り組むこと」で、様々な工夫やアイデアが生まれ成功するはずですよ。